

ポイント

◆◆特集◆◆

★道路の老朽化対策の本格実施に関する提言について★

(社会資本整備審議会道路分科会建議)

(国土交通省 道路局国道・防災課 道路保全企画室)

道路インフラの老朽化については、これまでも様々な提言や報告書において対策の必要性が指摘されてきたが、社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会での調査審議を経て、「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」が平成26年4月14日にとりまとめられた。本稿では、このうち、「Ⅰ.最後の警告」の全文と「Ⅱ.道路の老朽化対策の本格実施に向けて」の概要について紹介する。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★植樹帯に進入した車両が設置されていたコンクリート杭に車両を接触させ、
車両が損傷した事故について、道路の管理瑕疵が争われた事例★

〈平成25年12月19日 鹿児島地裁加治木支部判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

植樹帯に車両を進入させ、地下に埋設された情報BOXの位置を標示するコンクリート杭に接触して車両を損傷し、国家賠償法第2条1項又は民法717条第1項に基づき損害賠償を請求。

【判決要旨（請求棄却）】

当該杭（高さ30cm）に危険性はないこと、当該スペースに（植樹帯）に車両の進入が予定されておらず、車両が進入すること自体が本件スペースの通常の用法ではないことから、管理瑕疵があるとはいえない。

◆◆TOPICS◆◆

★浜名湖地域における減災・地域振興に関する現地実証実験★

(国土交通省 中部地方整備局 道路部 地域道路課／

国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所)

「浜名湖地域における交通結節点を活用した減災・地域振興協議会（会長：三浦裕二日本大学名誉教授）」が主体となって行った、「浜名湖地域における減災・地域振興に関する現地実証実験」について紹介する。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★那覇都市圏内における自転車ネットワーク整備計画検討について★

(内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課)

沖縄県には鉄道・電車が無いため、車依存型社会となっています。それが要因の一つになり那覇都市圏では慢性的に渋滞が発生しております。このような状況の中で、渋滞対策として、自転車利用の向上、公共交通利用の向上等が求められており、今回は自転車利用の向上を目的とした、那覇都市圏における自転車ネットワーク整備計画の検討について報告します。

.....

★山口県における道路施設の長寿命化対策について★

～橋梁の長寿命化対策等について～

(山口県 土木建築部 道路整備課)

今ある橋梁を計画的に修繕しながら長期的に利用するために取り組んでいる「橋梁の長寿命化対策」、地産地消及び維持管理の省力化の観点から取り組んでいる「コンクリート舗装の活用促進」について紹介します。

.....

★宇部市における新たな財源確保への取組み★

～歩道橋ネーミングライツパートナー&道路照明灯スポンサー事業～

(山口県 宇部市 土木建築部 道路河川管理課)

近年、道路施設を含む社会資本の老朽化が急速に進行することが予想される中で、宇部市では、民間企業・団体や個人から「歩道橋ネーミングライツパートナー」や「道路照明灯スポンサー」を募集し、道路施設の維持管理費の財源を確保するとともに、市民サービスの向上や地域経済の活性化を目的とした取組みを行っています。

◇◆お知らせ◆◇

★『子や孫に つなげていきたい 道がある』★

～平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、道路の意義・重要性について改めて考えて頂くことを目的に、推進標語を広く一般から募集しました。

審査懇談会における厳正な審査の結果、応募総数6,075作品の中から、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が選定されました。

◆◆編集後記◆◆

1930年（昭和5年）に第1回大会がウルグアイで開催されたサッカーW杯。今年は4年に1度のW杯年であり、6月13日にブラジルにて開幕しました。W杯は、サッカー大会の最高峰として、オリンピックを凌ぐといわれるほどのスポーツの祭典です。約1か月間にわたって国のプライドをかけた熱き戦いが繰り広げられ、世界トップクラスの洗練されたプレーが観られます。そのため、世界中のサッカーファンだけではなく、自身のように、4年に1度のにわかサッカーファンとなって、試合観戦を楽しんでいる人もいます。今大会は、ブラジルでの開催とあって、日本との時差が12時間もあります。すべての試合を観戦しようとする寝ている暇がありません。

予選を勝ち抜いた32ヶ国すべての出場国の試合を観戦することはできませんでしたが、観戦した試合の中だけでも、選手個人の才能を最大限活かそうとする国、チームプレーをその戦術とする国など、それぞれの国の文化や民族性を垣間見ることができました。相手を翻弄するパスワークやドリブル、力強く美しいゴールシーン、これまでの試合だけでも、言葉で表現することが難しいスーパープレーで十分に魅了させてくれました。また、タイムアップ直前のゴールや、逆転を狙うゴールには、勝利に対する執念を感じるとともに、最後まで諦めない精神力が強く印象に残ります。これから始まる決勝トーナメントでは、勝利したものだけが次なるステージに進むことが許されるだけに、気迫にあふれる美しいスーパープレーが楽しみでなりません。

サッカーの世界では、抜群の技術をもちながら創造性や独創性に富んだプレーを行う選手をファンタジスタと呼ぶことがあるようです。もともとは、イタリアのメディアがこのファンタジスタという言葉を用いて、技能等に秀でた選手を称賛したことが始まりだといわれています。分野は違いますが、文章をもって伝えたい言葉を綴るにも、やはり、創造性や独創性が欠かせないと感じているところで、この道路行政セミナーに携わるようになってから、その気持ちが一層強くなりました。どこの世界・分野に身をおいても、創造性や独創性を豊かに保つことはとても大切であるということに違いはなさそうです。